

MaaSの推進に向けた基盤整備事業・事業評価

令和7年1月24日

補助事業者名：神戸新交通株式会社

評価対象事業名：地域交通キャッシュレス決済導入支援事業

①事業の結果概要	
(事業の実施内容、結果の概要等を記載)	
インバウンド需要に対応するためキャッシュレスによるシームレスな移動の実現により郊外の観光スポットへの回遊性を高め滞在価値の向上を図る。また、キャッシュレス決済(クレジットタッチ、QRコード)を導入することで硬券の取り扱いを減少させ、券売機、改札機の更新、維持経費の削減を図り駅務機器のスリム化を推進する。	
②事業実施の適切性	
A/B/Cのいずれか	(交付申請時の計画に沿って、事業が適切に実施されたかどうかを定性的に記載)
A	事業が計画に位置づけられたとおり、概ね適切に実施されている。 既存改札機を改造するための部品調達に時間を要しているが、想定範囲内であり計画通り進捗している。
③目標・効果の達成状況	
A/B/Cのいずれか	(交付申請時の目標値の達成状況等を定量的に記載)
A	・令和7年3月末にポートアイランド線、六甲アイランド線の全駅にキャッシュレス決済システム機器設置完了見込み。(ポートアイランド線は令和6年4月にクレジットタッチ決済システム導入済み) ・QRコードを活用した新たな企画乗車券を発売するため、神戸市内の交通事業者が参画するワーキングに参入し、他の交通事業者と連携を図りながら発売に向けて協議を行っている。
④今後の改善点	
(目標値の達成状況等を踏まえ今後の改善点や、取組内容等を記載)	
神戸空港の国際化を好機と捉え、現状の企画乗車券の拡充や他の交通機関との連携も含めて幅広く検討し、企画券の具体化を図っていく。	

※事業実施の適切性における評価の凡例

- A: 事業が計画に位置づけられたとおり、概ね適切に実施された
 B: 事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった点もあったが、それに対する課題の整理が図られた。
 C: 事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった

※目標・効果達成状況における評価の凡例

- A: 事業が計画に位置付けられた目標を概ね達成した(する見込み)
 B: 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった(一部達成できない見込み)
 C: 事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった(達成できない見込み)